

豊田氏と森氏の

# ちょっと行ってみたいへんで! 四国八十八箇所編

～18番札所から20番札所まで～

前号までは徳島市中心より北西部をご紹介してきましたが、今回から徳島市を離れ徳島県南東部へと移っていきます。



札所巡りの  
前に

ちょっと寄って  
みたいへんで

恩山寺の手前、小松島市芝生町に高さ20メートルの「旗山」（史跡）という小高い山があります。源義経が屋島の平氏を攻める際、小松島に上陸後、この地に源氏の「白旗」を翻し、軍勢の士気を昂揚したところと伝えられています。八幡神社の石段を上り右手に回ると、武装し弓を構えた大きな「義経の騎馬像」があります。騎馬像としては日本最大で、高さは6.7メートルとか。また「義経ドリームロード」というのもあり興味をそそられます。



第18番

おんざんじ  
恩山寺

本尊 薬師如来

徳島市国府町の17番井戸寺からは、徳島市のシンボル眉山を右手に見ながら街中を通り抜け、勝浦川を渡って小松島市田野町の恩山寺まで約20km、徒歩では約5時間の行程となります。国道55号から西に約1.3km入った小高い山の中腹にあります。

縁起によると、聖武天皇の勅願により、行基菩薩が厄除けのために薬師如来を刻み、本尊として開基し、大日山密厳寺と号し女人禁制としました。創建後百年を経て、弘法大師がこの寺へ留まり、その時母君の玉依御前が大師を慕ってお出になりましたが、女人禁制

のため登ることができませんでした。大師は仁王門の近くで秘法を修して女人解禁の祈念を成就し、母君を伴って登山し、日夜孝養を尽くされました。やがて母君は剃髪してその髪を納められ、大師は寺号を母養山恩山寺と改めました。



第19番

たつ え じ  
**立江寺**

本尊 延命地蔵菩薩



恩山寺からは約4km。旧道を行ってもいいでしょう。立江寺は四国八十八箇所にあるという関所の一つ。悪いことをした人や罪人や邪悪を持った人は、関所で大師のおとがめを受けなければなりません。

～その昔、石見（島根県）浜田の桜屋銀兵衛の娘



のお京が、大阪で芸妓をしている時、要助という男と夫婦になって故郷へ帰った。しかし、身持ちの悪い要助に愛想が付き、鍛冶屋長蔵と密通する仲になり、長蔵をそそのかして要助を殺し丸亀に逃げた。享和2年(1802年)お京27歳の時であった。その翌年の春の夕方、追っ手から逃れるためか、それとも罪滅ぼしのためか、二人が遍路となって札所巡りを始め立江寺にやってきた。本堂に近づくやいなや、お京の黒髪はたちまち逆立ちとなり、本堂の前に垂れている太い鐘に巻き上げられ、高く吊し上げられてしまった。狼狽した長蔵は住職に救いを求めた。住職はこの次第を尋ね、お京がその罪の一切を懺悔すると、不思議なことに黒髪もとも肉は剥げて鐘の緒に残り、辛うじて命だけは助かった。二人は過去の過ちを懺悔し、真人間となって寺の近くに庵をむすび仏道に精進したといわれている。～

縁起によれば、聖武天皇の勅願所として天平年間に行基菩薩が開創。現在地から400メートルほど離れた清水の奥谷の山というところで、弘仁6年(815年)弘法大師はこの地にとどまり、現在本堂に安置されている大像を刻まれ、行基菩薩の像をその中に納められました。天正年間の長宗我部元親の兵火によって堂塔は焼失したが、本尊は無事で、その後、蜂須賀家政が現在地に再建。万治2年(1659年)の建立の本堂は近年焼失し、現在の本堂は昭和52年(1977年)の再建。大師堂、多宝塔、観音堂、護摩堂のほか客殿、書院、接待所などの建物があり、常時150人宿泊できます。

第20番

かくりんじ  
鶴林寺

本尊 地蔵菩薩

恩山寺から約15km。阿波の札所では12番焼山寺以上の難所と言われてきました。寺への登り口の生名鶴林寺下から標高570メートルの山頂までの表参道は4.3kmあり、急傾斜の山道が続きます。近年になって5kmの自動車道が開通し便利になっています。ただ、見晴らしのいい場所が少ないのが残念です。

山門の仁王像は運慶作と伝えられています。杉や松の老樹の中を行くと六角堂、忠霊殿、修行大師像があり、その先の石段を登れば、慶長5年（1600年）に再建された本堂、右側に文政10年（1827年）再建の三重塔があります。本堂の前には二羽の白鶴が向いあっています。

～この寺で修行中の弘法大師は、黄金の地蔵菩薩が老杉のこずえに降臨し、それを二羽の白鶴が翼をかざして守っているのを発見された。歓喜した大師は、直ちに1メートルほどの地蔵菩薩を彫刻し、黄金像をその胎内に納め本尊として安置され、山容がインドの霊鷲山に似ているので、山号を霊鷲山、また寺号を鶴林寺と名付けられた。寺伝によれば、延暦17年（798年）桓武天皇の勅願によって弘法大師が開創し、真然僧正が七堂伽藍を完成した。その後、寺は皇室の尊信もあつく、また源頼朝、義経、三好長治、蜂須賀家政などの武将も寺を保護し、阿波一帯の寺が兵火で焼失した時も難を免れている。～

寺は「お鶴」「お鶴さん」などと呼ばれ、ご本尊の地蔵菩薩は霊験あらたかので「矢負の地蔵」「波切地蔵」とも言われています。

(担当：豊田雅信・森正夫)

